

日本医師会 JMAT 研修「ロジスティクス編」

と き 令和4年1月30日(日) 9:00～17:30

ところ 日本医師会 (Web 開催)

[報告:理事 上野 雄史]

日本医師会 JMAT 研修会は「JMAT として、一体的・組織的な医療支援活動を行えるようにする」、「被災地のコーディネート機能にしたがって、適切な災害活動が行えるよう、災害医療に関する基本的な知見を身につける。また、自地域で災害が生じた時には、地域防災計画や所属医師会のマニュアル等にしたがって被災地 JMAT としての活動を行えるようにする」、「災害発生時において、被災地の都道府県医師会や郡市区医師会等との協働による医療支援活動の充実に資する」ことを目的として平成30年から毎年開催されている。基本編、統括 JMAT 編、地域医師会 JMAT コーディネーター編、ロジスティクス編に大別され、今回、ロジスティクス編に参加した。例年は、日本医師会館に赴き講義、実技、グループディスカッションで行われるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年以降、日本医師会館をホストとして、ZOOM を用いた Web 形式での開催となっている。参加対象者は救急災害医療担当役員等の医師、医師会の事務職員となっており、今回、私と JMAT やまぐちプロジェクトチームの一員である宇部市医師会の若松隆史先生、オブザーバーとして前川恭子 常任理事が参加された。今回はロジスティクス編ということもあり、他地域からは、医師、理事、病院職員、医師会職員等、29 都道府県から 49 名の参加者があり、医師は 3 分の 1 で事務職員の参加が多くみられた。

本研修は災害発生時、JMAT の派遣・受入れを担う医師会活動において、被災地の医師会や都道府県保健医療調整本部・地域拠点との関係を構築し、地域拠点におけるミーティングの調整、支援・受援、生活環境の確保等、運営・事務の役割を担うロジスティクス担当者の育成と、その役割を理解することが目的の研修会であった。

JMAT 研修 e ラーニングシステムによる事前学習

本研修を受講するにあたり、日本医師会 JMAT 研修 e ラーニングシステム (JMAT-e) による事前学習、確認テストの受講が義務づけられていた。本システムは JMAT 研修用ページが設けられており、アクセスには事前登録、専用パスワードが必要だが、Web 環境があればどこでも受講できるシステムである。

1. 災害医療概論

被災地では、混乱した状況、限られた資機材で、複数の組織が入り混じる中での医療支援活動となるため、医療支援を行う環境・体制を整備するロジスティクス専従要員の配置が必須。国際緊急援助医療チームの活動の経験を基に、DMAT での業務調整員の育成が始まった。業務調整員は通信の確保、情報の収集・記録・伝達・共有、関係機関との調整、資源の確保、資源の移動/輸送、活動現場の環境整備を担う。災害医療ロジスティクスに関わる人員の育成と、そのスキルアップが必要。

2. 情報の共有・記録

衛星電話 NTT ドコモ ワイドスター II の操作説明の動画を視聴し、本会所有の同衛星電話と自身の携帯電話とで接続確認を行った。

3. 本部機能

災害発生時の JMAT 派遣要請の流れ、保健医療調整本部への参画、情報共有ツールとして都道府県医師会・日本医師会災害時情報共有システム (オクレンジャー) の説明、身分証としての医師資格証 (HPKI カード) の利用、JMAT 医薬品リストの説明、JMAT 登録申し込みの説明がなされた。

4. 日本医師会への情報発信、全国医師会との情報共有

日本医師会 JMAT 本部サイト（常設）で派遣情報の確認、活動報告、派遣カレンダー、クロノロジーの入力についての説明がなされた。

5. JMAT 派遣終了後の活動

中長期医療支援として JMAT II の活動、被災地の地域医療・地域包括ケアシステムの復旧への支援、災害復旧に対する日本医師会の予算要望活動、医療施設等災害復旧費補助事業、災害救助法の運用、日本医師会の東日本大震災後の取り組みについて説明がなされた。

6. 医療施設等災害復旧費補助金について

自然災害により医療施設等が被災した場合、公的医療機関や政策医療を実施している医療機関等、一定の要件に該当する医療施設等の建物や医療用設備などを復旧するための費用を補助する制度。建物、医療機器のみ適応。事後請求も可能だが、写真等で被災状況を証明することが必要。

研修内容

1. JMAT ロジスティクス総論（講義）

日本医師会常任理事 長島 公之

JMAT 活動とは、被災地の医師会による「被災地 JMAT」と被災地外の医師会が派遣する「支援 JMAT」からなる全国の医師会の協働である。JMAT は災害医療コーディネート機能のもと医療活動を行い、その役割は直接の支援、被災地の公衆衛生や被災地の健康管理など広範に及ぶ。情報発信も必要。JMAT ロジスティクスの役割については、災害発生前は研修・訓練の企画、情報共有手段の整備、各医師会間の連携、資材の備蓄、行政や関連団体との連携の構築が必要。災害発生時は被害状況や避難所等の情報共有、チームの登録者への待機要請を行う。被災地では医療ニーズが急変することが多く、常に災害対策本部に参画し関係者と情報共有することが必要。診療情報管理のツールとして、カルテとして「災害診療記録」、診療日報として「J-SPEED」があり、スマホアプリでの運用、J-SPEED の入力支援とし

て、J-SPEED オフサイト解析支援チームがある。JMAT 参加者の安全確保は活動上の優先事項である。日本医師会では「新型コロナウイルス感染症時代の避難所マニュアル」を作成しており、現在、アップデートに向けて検討を開始している。

2. 災害ロジスティクス概論

情報の共有と実際（講義）

日本災害医学会／

（独）国立病院機構本部 DMAT 事務局

災害医療課 市原 正行

災害は通常の医療体制では対応できない。日ごろは独立している医療機関の組織化が必要で、情報共有のツールとして EMIS がある。EMIS の機能として災害時施設情報、医療搬送患者情報、支援情報、平時の施設情報、（厚生労働省への）緊急通報がある。現場での情報管理はホワイトボードを用い、そこに経時的活動記録（以下、「クロノロジー」）、現状分析、指揮系統図、主要連絡先、被災状況等を示すことが必要。それをもとに、活動方針をたて、定期的に振り返り現状分析し活動方針の見直しを行う。通信手段の確保も重要である。

3. 情報の共有・記録 クロノロジー

（講義・実習）

日本災害医学会／

神戸赤十字病院薬剤部 安藤和佳子

医療救護班に必要な記録は、クロノロジー、組織図、コンタクトリスト、ToDo リスト、引継ぎ・報告のための記録がある。クロノロジーには情報入手した時刻、発信元、受信者を明記し情報及び指示事項を記載する。また、各種ミーティングの内容、現状分析、活動方針も記載する。本部においては記録係を専任し、ホワイトボードに記載する。速やかに電子化するのが望ましい。以上の講義があった後、豪雨災害、発災4日目、JMAT として神戸地域保健医療調整本部に入り、拠点本部の記録担当要員になったと想定し、本部におけるやり取りのデモンストレーションをみてクロノロジーを記載し、その後、組織図、コンタクトリストを作成する実習が行われた。

昨年受講した日本医師会 JMAT 研修（基本編）で同様の状況での実習を経験していたが、口頭で入る情報から重要点を簡潔に文書化し記載する作業は大変な労力を要し、改めて繰り返しの事前トレーニングが必要であると感じた。

4. 情報の共有・記録 通信（講義・実習）

日本災害医学会／

千葉がんセンター事務局医事経営課 小原 祐樹

情報の収集と伝達は、安全かつ有効な活動に必須である。不適切な情報伝達や誤った情報は現場活動を妨げ、災害対応機関を危険に晒す。業務調達員として、CSCA（Command：指揮、Safety：安全、Communication：情報、Assessment：評価）を常に意識し確認することが必要。情報収集ツールとしてテレビ、ラジオ、インターネット、通信機器として各種無線機、衛星電話、携帯電話があり、電源の確保も必要である。

本実習では、チャット機能を用いて、意見の交換が行われた。

5. 情報の共有・記録 EMIS（講義・実習）

日本災害医学会／

兵庫県災害医療センター放射線課 中田 正明

EMIS とは、広域災害・救急医療情報システム（wide-area disaster & Emergency Information System）のことで、インターネットを介した医療機関、行政及び関係機関の情報共有ツール。災害時施設等情報、医療搬送患者情報、支援情報、平時の施設情報、緊急通報が共有できる機能である。EMIS 研修用サイトへログインし、各自、地元医療機関が割り当てられ、緊急時入力と詳細入力の模擬入力を行った。被災地での病院の状況（施設の被害状況、ライフラインの状況、医療機関の機能、患者数状況、転送が必要な患者数、受け入れ可能人数等）が一元化された非常に有用なシステムであると理解した。より有効に利用するには、事前訓練で操作法、検索法等に慣れておくことが必要であると思う。

6. 情報の共有・記録 J-SPEED（講義・実習）

日本災害医学会／

広島大学大学院

医系科学研究科公衆衛生学 久保 達彦

J-SPEED とは災害医療標準様式（災害診療記録及び災害診療概況報告）のスマートフォンアプリケーションである。事前に J-SPEED + スマホアプリをインストールし、訓練モードでの設定を行い、実習において入力、情報の確認作業を行った。

7. 本部機能および被災地における活動

（グループワーク）

東京都医師会救急委員会委員 石川 秀樹

冬の平日、東京湾北部で震度6強の地震が発生し、所属医師会から JMAT として医療救護所への出務を想定した、各設問に対するグループでの討議を行った。設問は、安全の確認、医療救護所の開設、本部への情報発信、発災1時間経過した時点で起こりうること、診療上や運営上の問題及び解決方法、必要な人材、組織づくり、救護所の運営、救護所周辺の在宅患者の情報入手法等であった。

本実習では、1. 医療救護所の「開設の要件」と「最初期の対応」、2. 起こりうる諸問題の予見、解決方法の模索、3. 人材集め・組織づくり、4. 情報発信と受援の準備、5. 避難所以外での医療ニーズの把握、を行い医療支援を考えることが求められた。

8. 被災地における活動（グループワーク）

兵庫県医師会

救急・災害医療委員会委員長 小平 博

JMAT 第3陣としてチームで被災地に派遣されたと想定し、活動拠点本部に到着してからの初動や、避難所巡回活動の指示に対する初動、情報収集、現地での活動に関し討議し、活動報告の作成を行った。

本実習では、1. CSCA の理解、2. 各機関との連携、3. 被災地での活動内容、4. 全国保健師長会 避難所活動日報の活用への理解が求められた。

グループワークは、ZOOM のブレイクアウトルーム機能を利用し6～8名の各グループで行

われたが、5～15分の限られた時間で、各設問に対し各自が一問一答形式でしか行えなかった。また、研修の際は、設問内容がチームリーダーとしての立場で考えるのか、ロジスティクス担当者としての立場で考えるのか判断に戸惑うことが多くあった。振り返って考えると、実際の災害現場では、刻々と変化する状況で、限られた人材と資源で適切な対応を行うには、自分の役割を認識しつつ、立場にとらわれず臨機応変な柔軟な思考を持つことが必要とされるのだと理解した。

昨年の日本医師会 JMAT 研修（基本編）と今回の研修を受講させていただき、現場経験のない私にとっては、基本的な JMAT 活動、災害現場で活動の理解を深められる有意義な研修であった。当日、お忙しい中、長時間にわたり参加いただいた若松先生、主催いただいた日本医師会、日本災害医学会の先生方に対し、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

本研修事業は毎年度開催されており、ぜひ、多くの先生方に受講していただきたいと思う。

9. 日本医師会への情報発信、全国の医師会との情報共有（講義）

宮城県医師会常任理事 登米 裕也

日本医師会では、医療救護班の派遣先及び派遣数を決定する。現地では解決できない国レベルの対応も行う。被災地での現地活動を全国で共有することで、効率的な線活動につなげる。EMIS や J-SPEED だけでは伝えられない情報もある（被災地内の障害因子、医療従事者の疲弊状態等）。JMAT 活動報告様式があり、それをを用いて日本医師会 JMAT 事務局へ報告。なお、毎日報告されることが望ましい。過度の負担にならないように簡潔に、緊急度、重要度の高いものだけを記載。現在はメールでの報告が主体であるが、将来は常設の JMAT サイトを利用する予定。

多くの先生方にご加入頂いております！		<small>詳しい内容は、下記お問合せ先にご照会ください</small>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> お申し込みは 随時 受付中です </div>	医師賠償責任保険	取扱代理店 山福株式会社 TEL 083-922-2551 引受保険会社 損害保険ジャパン 日本興亜株式会社 山口支店法人支社 TEL 083-924-3005	 損保ジャパン日本興亜
	所得補償保険		
	団体長期障害所得補償保険		
	傷害保険		